# 大洞沢左稜山行報告

日程：２０１１年1月２２日～２３日
メンバー：塚原〈L〉中島〈ブナ会員〉

当初メンバーに入っていた三井さんが不参加となり、現在ぶなに所属している中島節子氏と２名での山行となった。

戸隠山と云えば西岳周辺の記録が多いが、表山と言われる山域も面白いルートがある。大洞沢左稜もその一つである。屏風岩東稜とも呼ばれている。このルートは、１０年以上前、元相模労山会員の故菅沼弘子氏と２年通った思い出深いルートである。今回強力なメンバーの中島さんと山行ができたことをまず感謝したい。

２２日、少々寝過したものの８時前には歩き始めた。戸隠牧場入り口から除雪されているクロカンコースを利用させてもらい大洞沢右岸を廻りこみ支尾根から稜上に上がる。私の不手際で私がスノウシューで、中島さんがわかん登高となってしまった。９時を少し回った頃稜上に着いた。

ここから稜上を２０分ほど進むと徐々に高度を上げていく。傾斜が強くなる前の斜面で登ハン具を身に付けた。大きな木が稜を塞いでいる所でザイルを出した。１ピッチ目塚原リード。木を左に回り込み３～４メートル登り稜上に出る。リッチ状を進み１０メートル弱灌木帯を登る。空身で登った為再度登り返す。途中木にスノウシューが引っ掛かり苦労した。この上の平坦な所に、スノウシューとストックをデポすることにした。

この先、稜は一旦下り徐々に高度を上げて行く。左側から回り込むようにして稜上に上がった。１０分程ラッセルを続けると、傾斜は増し稜が広くなってくる。以前来た時より雪が多い。確か木があった筈だが完全に埋まっている。正面の傾斜の緩い所がアイス状になっている。記憶に残っている所だ。近づいていくと、正面の岩との間がシュルンドになっている。浅い所で１メートル深い所で２～３メートルくらい。落ちないよう左にトラバースして行く。余り寄りすぎると屏風岩に落ちてしまう。

２ピッチ目塚原リード。２メートル程上の灌木でビレイしてもらう。易しそうな正面にトラバースしようと試みるがスカスカの雪に阻まれ近づけない。仕方なく傾斜の強い岩と灌木帯を登ることにする。ピックが岩にあたり決まらない。強引に木を掴み登っていく。アイゼンも木の枝に載せながらの登高となった。１５メートル程上の大木でビレイした。

３ピッチ目、中島さんリード。きのこ雪を落としながら左上して行く。４０メートルザイルを延ばしビレイしてもらう。相変わらずのスカスカの雪だ。４ピッチ目中島リード。ここもシュルンドが口を空けている。左右両側スッパリと切れている。中島さん傾斜の強い正面を木を掴み枝にアイゼンを掛けながら２メートル上がり、自己とザックを木で確保しスコップでひたすらきのこ雪を落としてゆく。一部はシュルンドの中に、殆どは遥か下方に落ちて行く。３０分位の雪落としの後ザイルを延ばしていく。屏風岩寄りに左上して行く。左から回り込み正面を登る姿が見える。３０メートル程ザイルを延ばしビレイしてもらう。５ピッチ目塚原リード。スカスカの雪でなかなか登れない。屏風岩寄りには登りたくなかったが、雪に乗り込める左上寄りに登る。２０メートル程上の木でビレイする。

中島さんと相談しこの上の広くなった斜面にテントを張ることにした。時間は４時を少し回っていた。私が水を作っている間、中島さんがトイレを作る。食事を終え寝る頃に雪が降りだす。明日の行動を確認する。率直にピークを踏めないかも知れないと、伝える。とりあえず１１時頃まで登り判断することにした。

２３日。７時には行動を開始する。稜の右側をトラバースしながら進む。前回来た所に着いた。左稜はここで１０メートル程高度を上げている。この個所もシュルンドが口を空けている。右寄りにシュルンドを避けながらトラバース気味に上がっていく。３０メートル行った所が登れそうだった。それを確認しテントサイトに戻る。昨日の１ピッチのトハン時間を考えると大して進めない、と云うことになり下山をすることにした。前回はほとんどの所でザイルを出したが、登りの２ピッチ目以外は自己責任で降りて行った。時間も早いので稜の末端を廻って帰ることにした。牧場に着くとクロカンの競技をやっていた。兵庫県の国体予選だそうだ。邪魔をしないように脇を通り牧場入り口に着いた。１０時は回っていたが早い下山だ。

やはり１月の戸隠では１泊２日では難しいのか今度来るときは、３月しかないだろう。